

瓜生氏

日本國畫

山陰道
山陽道

六

特31
441

共八本
六八本

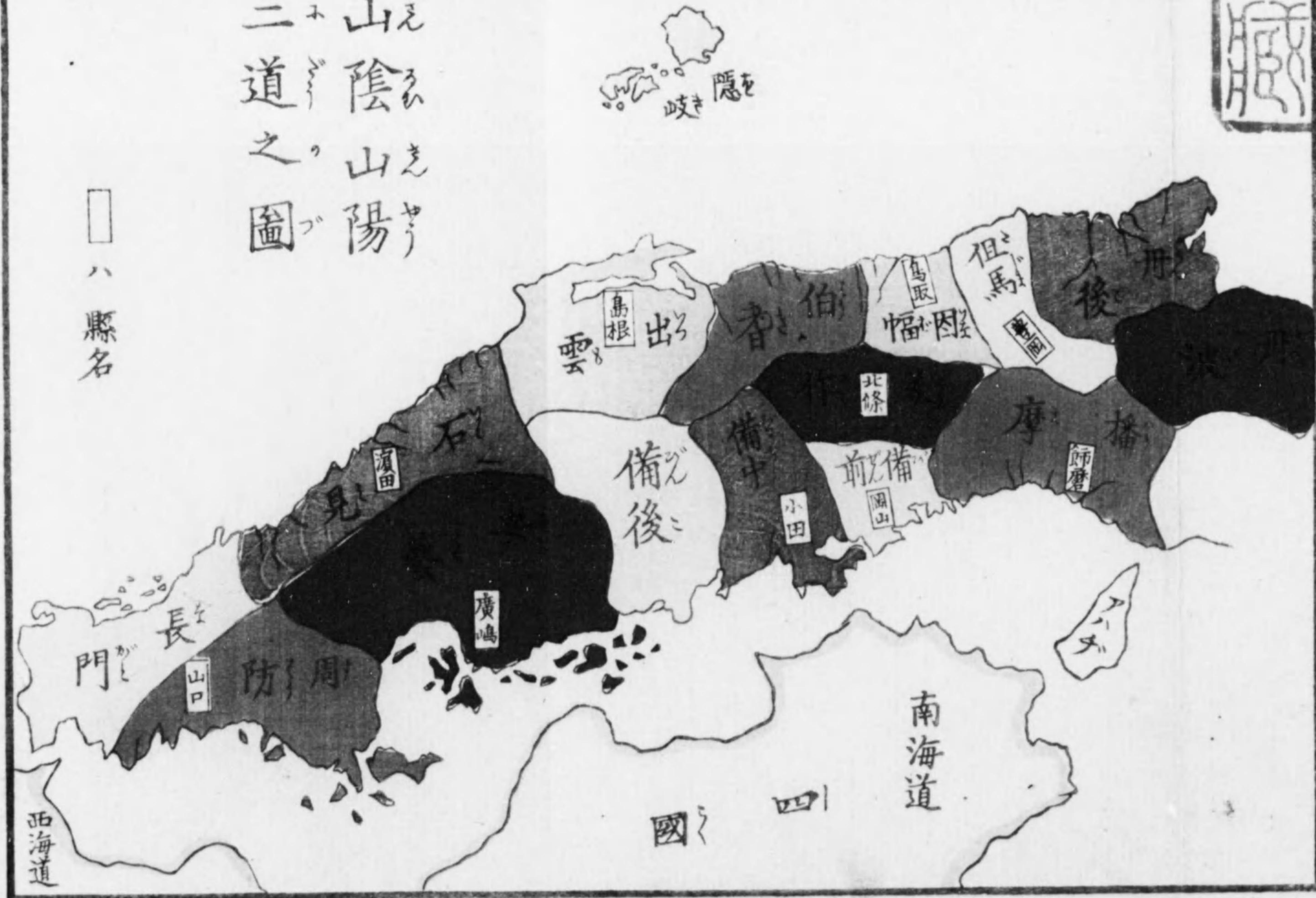
館藏畫會育教本日大			
二	一	二	六
函	架	號	冊

瓜生氏日本國書



二山
道陰
之山
圖陽

□ 八縣名

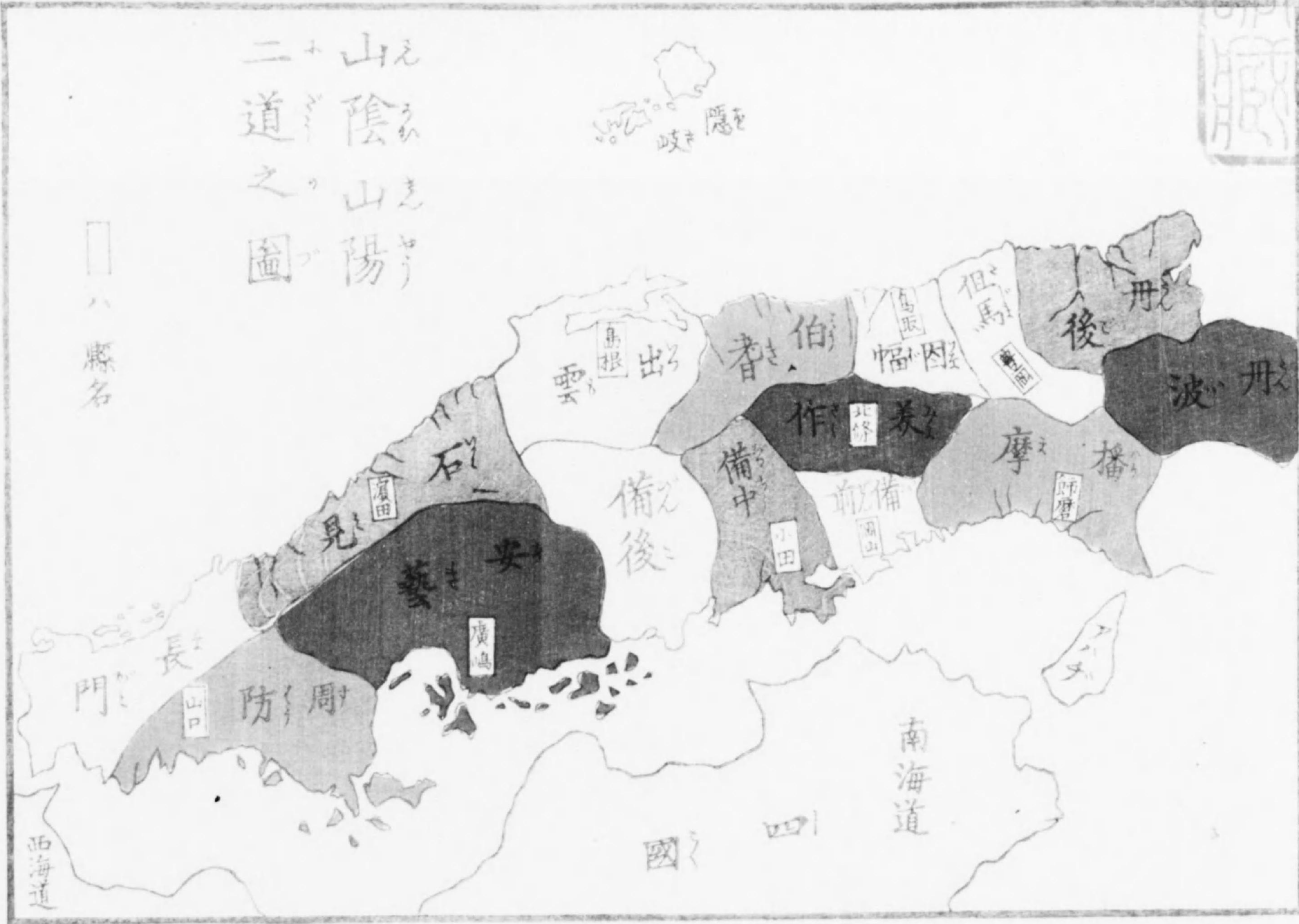




二山
道陰
之山
圖陽



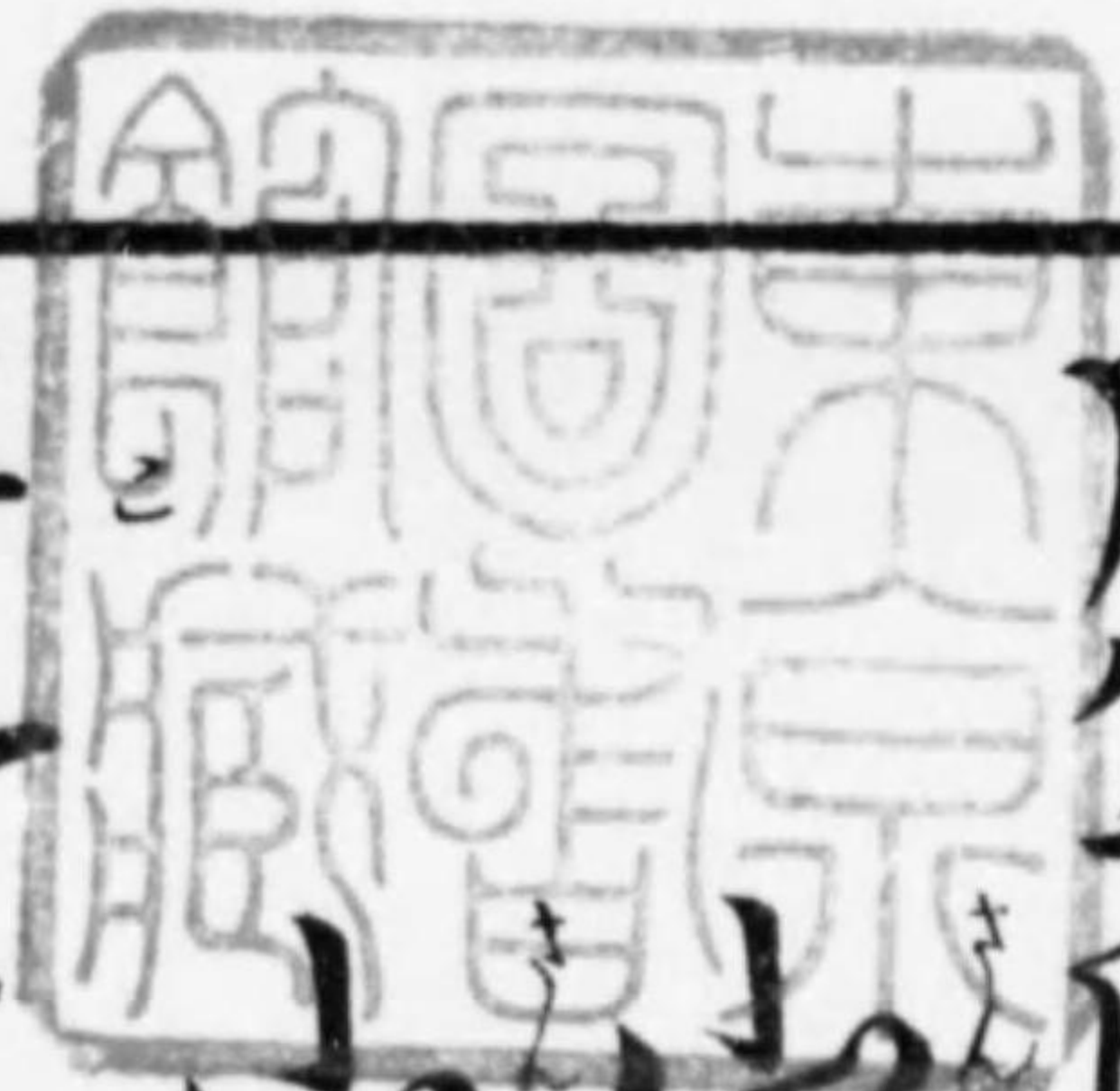
八縣名



四國

南海道

西海道



瓜生氏日本國盡卷六

山陰道も八ヶ國

山陽道も八ヶ國

是是是二乃乃五畿内也。

西より起るまゝ生真真西

つけて延び出たる長也

瓜生氏日本國盡卷六

土地をまゝ山をもて縦ふ二分
一、道と一、南の山向ふ山
陰山陽道の正南より九州
四國よりお向ひ内海僅ふ
お隔て山を脊負て陽は
必山陰道より山の北にお二面

日本海是を則ち陰の必
北は東より丹波より海が
必其の東十三東より山城近
江後小おより西より狭地
と丹後但馬や南手より攝
津播磨ふ地を隣り四方

山岳團藥さんぐわんりやく西にしと北きたをそ
 殊こと更さらり山やま々々高たかき北きた内うち
 子こ赤見あかみ黒谷くろや矢代やしろ嶺ね河が
 嶽たけ小こ左ひだりらら鬼おに珠たま丹に後ごの
 國くにと北きた境さかいをわたり四よ方ほうの山やま
 山やま内うちより集あつまる水みづは

二河ふたがわととあるまそ東ひがしの一筋ひとすぢは
 山城やましろより入いる大堰おほいづみ川がわ西にしと北きた
 と山やま々々北きた水みづを丹後たんごの大川おほいづみ
 小流こながをそ田邊たなへの海うみへ入いる
 國くには糸いと本もと候さむらひを北きた必かならずの地ちは
 冬ふゆを寒さむいくくなるやゆまそとと

日本國書紀卷之十一
谷間たうらなるまきまきをま定さだむ雪ゆきも烈くわく
く四季しきより霧きり深ふかく思おもへん
見みて之これ怒い事こともあま其その人ひと口
を救かふまきまきをま二十にじゅう八はち万まん二に千せん餘い。
民たみの風ふう俗ぶく情じやう弱じやくく女にを
二に八はちもまたたけけしし其その管くわん轄くわつは

全國ぜんこくをま西せいと東とうふ中ちゆう分ぶんく
東とうの船ふね井い何い處ちふ桑そう田でんを
加かへ三さん郡ぐんもも京都きやうと府ふ廳ていの
支し配はいあり西せいふ大たい田でん多た紀き。
氷ひ上みほほ三さん郡ぐんもも西せい水みづの母はは及および
但た馬まのいち國こくをあ併あむむ但た馬まの

豊^{とよ}つら^{つら}心^{こころ}射^やる^る産^{さん}物^{ぶつ}も^も烟^{たば}草^こ
 小^ち糸^や吸^まる^る炭^{すす}へ^へ積^つ出^だす^す杉^ま丸^ま太^た
 松^{まつ}茸^{たけ}胡^こ桃^{とう}薬^{やく}種^{しゆ}類^{るい}蠟^{ろう}和^わ知^ち
 糸^{いと}り^り荊^{けい}安^{あん}や^や墨^{すみ}魚^{ぎよ}の^の表^あ衣^い衣^え衣^え衣^え
 砥^と石^{いし}
 山^{さん}陰^{いん}道^{だう}の^の弟^{あに}二^に番^{ばん}丹^{たん}後^ごを^を

丹^{たん}波^ぱの^の小^せ北^{ほく}方^{ほう}海^{かい}へ^へ貯^{たくわ}め^め海^{かい}
 一^{いつ}穂^ほ地^ち東^{とう}より^{より}若^わ狭^さ西^{せい}但^{たん}馬^ま
 井^い井^い界^{かい}目^めを^を山^{さん}積^つ手^て殊^{こと}々^々
 名^な方^{ほう}の^のま^ま大^{だい}江^え山^{さん}小^せを^を八^{はち}海^{かい}
 三^{さん}つ^つあ^あま^まま^ま名^な所^{しよ}旧^{きう}流^{りゆう}敷^し
 一^{いつ}ま^まま^ま東^{とう}の^の方^{ほう}小^せ田^{でん}巻^{まき}の^の

丹波の山積手殊々

海田邊の城市にまゝに
丹波乃玉より流きて東に
うね大川の河口の由良の
港をおとすて八つを海
と與謝の海海の水より
南へつけ突きて出きて岬を

絶系を双青松白砂連
綿と海乃中央を一線と
横截する海を天竺の橋
をぬきしふ美水は長
さよそ二千二百丈闊きを
大概九十丈是を人天に

橋立とて。所得日永三系の
 舟。こゝとて。持を。稱さるる。是
 八江乃南宮津城市
 持を。一舳大岬岬。此出。人
 就崎也。小嶋沖。多ゆを。有
 西小向。へ。を。水の江也。



赤くそ名ふ負ふ浦島が
 子の船出を〜〜〜
 が岬り垂經浦五色の濱
 や大鼓の濱淡藻川も
 夕日の浦佐野川越えそ
 久美濱を是は西の方の

赤くそ名ふ負ふ浦島が

七

八海ぞ全國五郡人口を
二十四萬七千余上下男女
を扱ふるを好人すれを
風俗ありて其に管轄を
一玉をさして但馬の典を
乃其が縣廳に支配たり。

國小名を以て得て産物を撰
糸紬や丹波縮緬葛
筑文珠貝金古布 鰯海
魚解
丹波三但馬を以て海東の
丹波丹波の山を以て播磨

西國幡界もまたくまの山
 了。此れ山より落ち降る。
 水も國內縦横に流す通
 里も海も八分。此れの大なる
 出石川に此れ水源乃播磨
 地より隣り来る山も生野

少くも銀山ありて白銀を
 ほり出さるると盛なりやま
 河口乃城崎乃湯島も
 流るるありて此れ山も此れ地
 盤も東四時も湯治乃る者
 多し。此れ此れ南の方也。

町有縣廳。あり地。あり。當
國一國。八ヶ郡。丹波一國。
持。多。ふ。又。丹波三郡。を。管。
轄。土。地。を。頗。り。肥。饒。を。
風。土。も。丹波。ふ。や。同。じ。
持。此。人。口。概。畧。を。一。十。

六萬七千余。す。た。風。俗。を。
丹州。より。里。少。く。實。あり。
あり。と。南。ふ。り。郡。あり。
之。地。乃。ま。り。あり。所。あり。
其。産。物。を。出。石。絹。柘。り。
李。や。糸。綿。苧。葛。草。干。藪。り。

銀。茶種類。新倉山。掛。小砥石。

第四因幡。北の方。海。

面。三方。東。但。

南。播磨。美作。西。伯。

老國界。より。國內。小。通。で。

南。山。深。く。東。の方。小。因。

幡。山。西。り。就。鳥。峯。對。立。す。

せん。た。の。川。也。因。幡。川。國。中。

數。派。乃。川。の。水。一。の。小。合。を。

廣。大。乃。加。留。川。と。集。り。海。に。

入。る。其。河。口。は。南。手。よ。立。て。

たむ城市を鳥取とて嘗
玉友らひ小隱岐伯耆之
國を支配する持る縣廳の
あり所池を東小湯山乃
池中を小山と西日光小
山が池より青峰也風景

頗る悪し一國人口
十二萬八千ありて風俗
南小者美ありて南山
を美ありて海手ハ物智
阿里倚抄何しとて産物
を海索麵木幡干鮎於

日本書紀卷之...

原紙

第五伯耆此國形を蛇蝶
 乃象ふさきと似たり。南を
 頭おを尾右右此羽根は
 東南と西南の地へひらけ
 まる。左乃羽先を國幡の

國頭乃方を美作と續て
 吉備の中此國者此羽先
 を備及まを西水面も出
 せし乃國東水面を日本海
 水ふさきと出し尾の末を
 出雲より向ふ岬を名和

乃浦頭をうらら園心。此れ
 うららわら米子城近く邊
 ゆる舟乃上隱岐乃山
 後醍醐帝逃きて東浦
 風聲を駐め玉ひし行
 左所夫より國此南年

山々安事を越り重なる長く
 斗々高き大山也能見鍋
 山尾山是亦も高きをう
 附庸をわ河少く西
 目根川也東乃方小橋津
 川其外川々数志者く皆

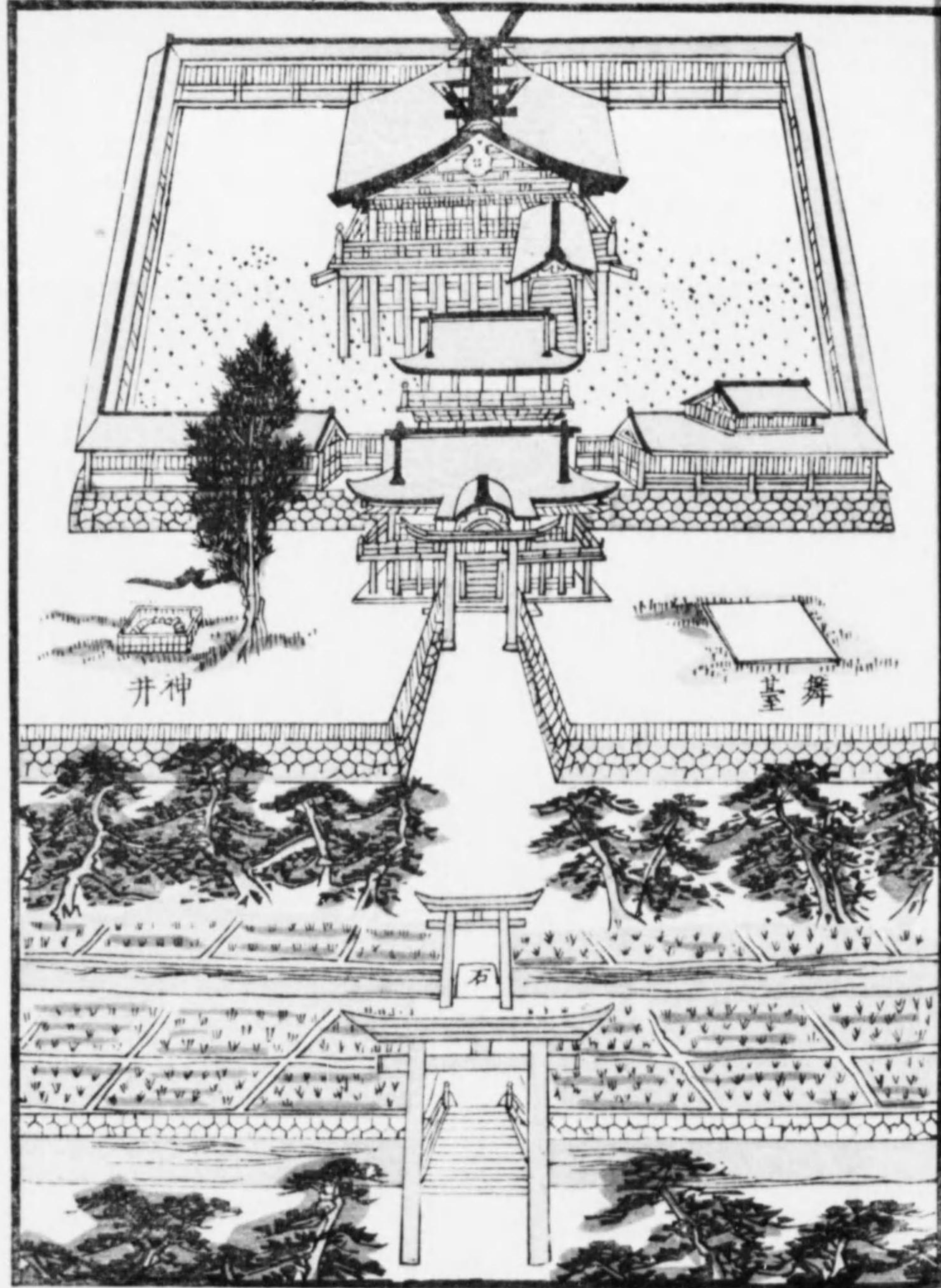
少海ノ北ノ地ニ入リ一石ノ郡
人口ヲ十ニ倍スルノ人多ク九千余
風俗虚実定キテ其ノ言
房多ク其ノ地多ク其ノ管
轄ヲ隣ニ及ブ乃鳥取縣乃
支配多ク其ノ鐵と銀と熊ノ

膽也大山草葺米子麩
斗。是事也其ノ地多ク其ノ
中六番多ク出テ乃國東ノ
地者南ノ方備後石見ノ地
ヲ接シ北ノ西ノ海濱ノ
也。全國十郡其ノ中ノ神

門飯石より大原也仁多能義
 意字乃六郡を大陸として
 西北に神門と意字乃間
 出岬を出雲郡と
 乃東より去りけ楢継秋
 麻島根郡折々曲々実出

一廣き八江を色々込む東
 乃端々三保乃関伯耆の岬
 とお對し呼も鷹つるむらり
 なる八江乃内も袖一の浦
 伯耆の國の名和の浦錦糸
 浦は喜々あけほれよほふ

出雲大社正之面圖



松江城。こゝより兩岸せむあり
 了。浦に囊乃中。之程。指也
 往來乃多。多。程。と。ま。て。こ。の。道
 内。を。大。湖。水。秋。麻。郡。の
 沖。津。浪。之。浪。乃。ま。ま。の。往。來
 浦。女。神。男。神。の。二。柱。伊。弉。諾

冊^し俾^い拜^ぶ諾^かの^の大^{おほ}社^{やしろ}出^い雲^い郡^{ぐん}の
西^し邊^へ少^{すく}も^も杵^き築^づ石^い名^な々^々大^{おほ}
社^{やしろ}國^{くに}土^{つち}乃^の經^{けい}學^{がく}百^{ひゃく}教^{きょう}其^{その}中^{なか}獲^と
志^し方^は多^たく^く海^{うみ}神^{かみ}あり^{あり}大^{おほ}に^に貴^{たか}
乃^の尊^{みこと}を^を持^もて^て祭^{まつ}り^り申^{まを}さ^さし^し宮^{みや}
居^ゐたり^り持^もて^て西^し少^{すく}も^も二^に里^り餘^{あま}
り

日乃岬も素盞島に尊を
祭る大社なり。三社合を
出雲の玉大社と申す。此
は小南山おほく琴弾山也
龍頭流之河が山乃北東を
宇乃郡をも八雲と申す。八

重垣揖屋坂岬も鶴山枕木
山川を鯨乃川出や川山川
各所にも多し。一國中乃人
口も二十七萬九千余。風俗
實多也。多し。其管轄も
分別殊のなる。其管轄も

松江左了。所ふまきたる島
 根縣。抄付石名産を鉄錫付
 深所り野白紙。松江の鮭
 と鮎。鮎。
 七小石見。東の方出を
 備及ふ連續。安藝を沿

了西南一折。磬形り延
 衰。少人。周防と長門乃
 國南と西をとり。圍む。西
 面を海り。向ま。三方山
 お。早。巖石峻。く山
 高。因。石見のふといふ

日本國志卷六

國をせしむく。獲府の川其水
源も安藝備後東の方より
流きて來り。北乃海とて海に
入る。西も川とて海に合て。角
川乃流とてなり。流きて入る
石見之瀉高角山も大丸の古

跡今も尚のこる。浦も大浦
唐の浦戸田乃港も外海の
濱田も當國一國の管轄
廳のある所之を濱田縣と
す。人口二十四万余。其風
俗も丹後も似たり。智もあま

實ある人稀なり。山北名産
銀と錫鉛白蜜椴の木。

隱岐も山陰も舟八番出雲の
少沖中よ島前岬後と
二分して。左よりひてまきし
岬のよ島後を周廻三十里

半出雲の三保より十八里。
北に島前も知夫里岬。西の
島中も中岬島。三岬合をて
志し稱も。知夫里も七里の周
廻。中岬の岬も十七里。西も
二十里あり。舟八番。北に

小嶋こじまと云はる。岬港いさみの敷か。
志しまきまの島しま中山ちやんざんと云ふ多た。
中ちゆうの所ところも海部郡うべぐん。承久じやうきゆう二年
乃のち於お此こゝ昔むかし後鳥羽ごうとの帝みかど。虐あやむ
臣おみ此こゝ北條きたじょう茂時もぢ乃のちををりし。
巡狩じゆんしゆありし。伊豆いずの流なが。

西にしの島しま少すくる義時ぎぢの子孫こそん。
時とき父祖ふそ不似ふにて。悪逆あくぎやく多たる甚こゝろ。
正應元年せいおうげん。及およ醍醐たいご此こゝ。
帝みかどを遷うつす。山やまををりし。行ゆ。
宮みや此こゝ跡あと。白しろ依よ死し黒木くろきの所ところ。
所ところもくくふふありし。ささるる。ままりし。

因^ゆあ^のの^をる^に縣^の支^配を^て。
其^の人^は口^を屋^をや^り二^萬。
萬^一千^七百^人北^海中^乃時^也。
方^を建^てが^{。寒}雪^尤も^甚く[。]
人^をま^り柔^弱放^逸を^し祭[。]
其^の産^物を^串蛇^海鹿[。]

鰯^{さけ}小^相桑^乃木[。]

山陽道

のあつるを播磨の西に播
 磨の北に山をさへ
 とみ丹波但馬と因幡と
 備前をさへ西に美作と
 備前の北に隣りせり

日本國盡卷六

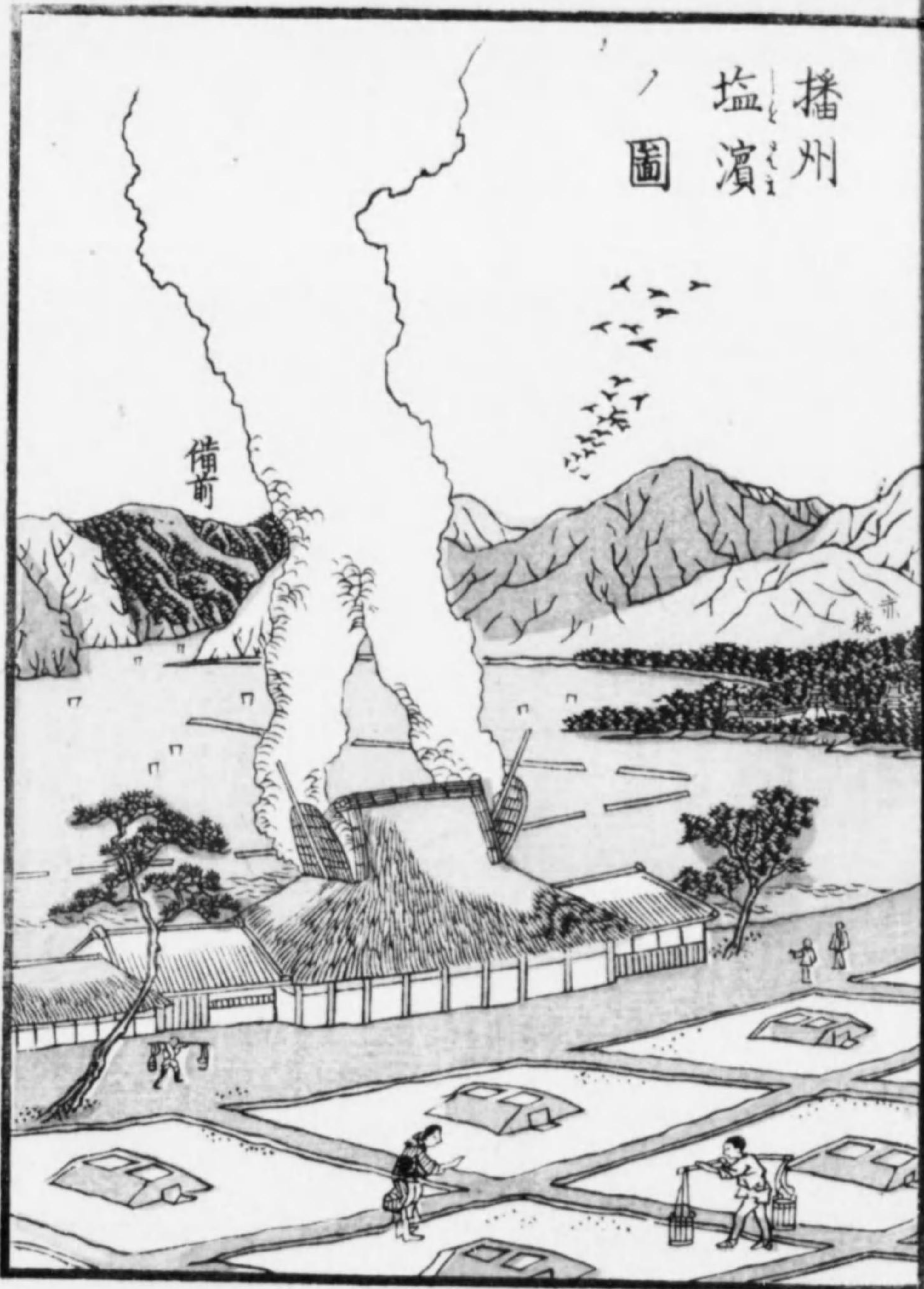
二面播磨河按津と界
の塚川越く舞子乃濱
つまき明石の浦乃船務の
後乃り見ゆる淡路島
裳と掲き渡るへ明
石の西は加古川の口と名ふ

あふ高砂や尾上の松如
年ふるまへ君が千歳を
壽々々其西は方市川
乃流如岸ふ高木乃十
六郡の一園を支配の飾
磨船底を立設きたる

市街河をさす之を姫河
乃市街といふ西条川は
西の方室津を繋ぎ集乃
一港沖を島と敷布し
淡加家跡大なる嶋是
おる頗る大なり宇根川

よりの川西は赤穂島
義士能故郷とて大石櫻
咲きにはほふ備前の由
程近し山を東北にさす
山如く金倉雪彦山備
前界の千船坂山其東に

白旗山一國人口六十萬人
 相稠密土地富饒之其
 溫和乃國名其智
 安里之義理を欠く其
 産物之赤穂塩鋼鉄類
 華



播州塩濱圖

亦二を以て作山國とて海
なる國の十四番。陰陽之方
少色すれり。空方を圍ふ
由を以て北より因幡と作
の國。東より播磨西備中。
南より備前のみを四直す。

東西長く南水を経く
 狭く足痕能形のごとく乾
 り。巽乃方小お向ふ必の
 堺を山多之。水一俵り土
 地多々。穀乃河水南流
 終小津山乃川とあり。

堺小至里東水より流連
 東水と水と會て備前
 乃國々入る是を即ち
 東川又西水乃間々
 東南小馳を備前地
 南水入る河を笠法川

其川西小赤見山。东北方
小更山や山乃北なる津
山とらる國の中央の一市
街ありて當國一國管轄の
北條新庭とて小ありて必
却く十二郡人口大略十

五あり人元を卑者のやう
なるまや石ありて里を縁
るも我其産物を石
糸三備前なる土地の形
恰も蓮の實乃とて南
り濶く水狭く西の一帶

備中北東を播磨東北
も。又作の地。北界。南
を都て海を多り。北界。北
も。國内。河。水。之。後
ち。東。國。を。分。之。三。分。
南。北。海。り。注。ま。入。る。西。を

即ち笠比川東より方以東
川。之。能。川。下。を。吾。野。川。口
乃。對。之。兒。島。の。端。四。人。島
を。昔。島。名。な。り。今。を
東西。細。長。半。嶋。と
る。備。中。の。都。字。郡。

連舟り本地と島の間に
一長灣をさそみふむ吾井
川の川東家出く濱を
牛窓や唐琴浦より見
渡きそ前島大島を
乃此の如敷く立ち并ぶ

山を熊山天神山十三
峠を播磨地へ往来り
たとる坂をく笠江川
乃西岸小開きく市街
そ岡山とく當園一園八
郡を管轄く玉ふ岡山乃

其縣廳を立く置る。一、
中の人口を三十一萬八千
余。安ん是中和小風候ハ播
磨乃由小稍似を里。持此
産物を伴部焼索麵醬
油刀類

才四備中國能於恰子島
賊乃不そくふそ。北持此既
を美作と。伯耆能於間り
挿み。左を備及右備前。
腰を一面海小傍ひ足冬
海中小曲を出そ。出せり

是を備前^{びぜん}とす。即ち^{すなはち}田原^{たはら}
乃半島^{なみじま}とす。此^{こゝ}必^{かならず}山^{やま}より平^{ひら}
地^ちあり。北^{きた}より剣^{つるぎ}を^を心^{こゝろ}
其^{その}東^{あづま}南^{みなみ}より塩^{しほ}城^{まつ}山^{やま}赤^{あか}濱^{はま}
若^{わか}山^{やま}懸^か山^{やま}東^{あづま}乃^{すなはち}界^{かゝり}り^り八^や
幡^{はた}山^{やま}少^{すく}より^り板^{いた}川^{がは}合^あ合^あ。

國乃中^{くにのちゆう}身^みを^を貫^{つらぬ}き^て南^{みなみ}
の海^{うみ}に^を注^つぎ^て流^{なが}る^川を^を即^{すなはち}ち
甲^{かう}部^ぶ川^{がは}國^{くに}の^の中^{ちゆう}央^{やう}に^を梁^{りやう}
と^す。甲^{かう}部^ぶ川^{がは}乃^{すなはち}東^{あづま}岸^{きし}に^を當^あ
ふ^内に^を結^{むす}ぶ^地に^を北^{きた}に^を東^{あづま}
あり^一水^{すゐ}を^を音^ね備^び津^つ乃^{すなはち}

社乃西を過き。思ふ由能
内能濟小入る。備後之境不
程近き。海より望める笠岡
能市街を新屋安多地不
之。之。由。五。十一。郡。備。後
乃東半六郡を支配

五。小。田。縣。存。り。沖。を。遙
小。水。嶋。洋。海。上。高。一。數。多
一。全。國。人。口。三。十。萬。土。地
一。体。小。肥。沃。上。り。必。若
名。を。得。り。人。の。風。俗。を。地
法。を。義。理。を。勵。り。以。風

由安の里。其産物を少業
紙漆最反匣押運。
才五備後を國能形就
乃既能ことく少く堵目
東備中ふ接して東北
巔頂を伯耆能はよ界をり。

其味と咽喉を出入る石
見ると安藝の國三ヶ國ふ
隣して其能頸を一面
南海をふ相臨む東ふ
阿ふ東條川東ふ流を備
中乃甲部川ふ流を八ふ

日本國書卷六

北小當里を数に支流
 西より合流し安藝より
 来る川水とつり合ふ
 石見なる江乃川水の源
 となる上野山乃南の方
 安藝より来る二丈川

合ふとつ乃河と有架
 延く曲り伊勢山に東を
 通る三つ四つ乃枝り別
 是く海へ入る蓋田川と有
 是くは能間と有福
 山乃海より流る市街小

志々北に於て西平より海中
より突出し岬を靉の浦往
来の船の船洞日本者一形
猶と韓國人を見たり
是より西を海灣より
地方を尾の道にきり

沖を田嶋也向嶋を分る島
乃敷おほし。全國をてく十
四郡。西と東を二分志々
東の方乃六郡を小田縣
管下よお厚し。西八郡を
安藝の国。廣野縣乃管

轄を。人口三十万有餘人。元
 生得實氣なり。其の必
 産をその名を以て廣き備後豊
 表り。今羽編笠。
 才の番を安藝の國に
 髑髏のこころを以て西を

周防小地を接し。其を曲
 弓形小石見と備後
 小お交り。東の方面に地
 教を備後乃西由隣接
 たり。其の地帯を二帯と
 備後乃其の海と知る。

北へ山陽に國の内三備
を大都平坦なり。此地は至
る山多し。北より南へ西を
よるも流るる水も東なる
鬮鬮乃鬮の交るを折て
曲る鬮を倍ひ備後の

水も流るる石見の山は
流るる鬮鬮の鬮鬮は
あをるる水も流るる水
東流る國は中央を程
は流る東乃水も合る
南小折る三又の川も合る

て海小入る。西なる川を
小屋川とて東ニ又のるこ
於廣嶋とて市街と
て當國一國ハ郡と隣
備後乃郡と支配の廣
嶋縣府を立置きたる所

なる廣嶋沖とて大灣
小屋川の西ハ川乃海と注
ぐる川口より東一里は海と
小日本と系たつたる國
七里は宮を切り市拵嶋
姫は熊座とて神殿と座

壯嚴小後を孫山前を海。
 左有る原野に相系也。鏡系
 無双の嶋に於ては。持統の
 大少島を以てて。江田也。音
 頭也。清手洗也。蒲刈大崎
 瀬戸田崎音。既の嶋を持

藝州
宮鳴
之圖



乃昔むかし半島はんとうとてなまきり一城
 切斷きりたち了。船ふねは注東あづまの便たよりと
 之こゝろを音頭おんづれ瀬戸せとと云ふ。
 此こゝろは風土ふうと温暖あたたかなり。地味ちみも
 大都おほみや厚あつなり。人口じんぐう大凡おほむね五
 十じゅう萬まん。風候ふうこう實じつ多おほなり。

比之免古きる所あり。其
 乃産物之鉄と牡蠣と。其
 子葛心就海苔多し。
 才七周防を破さるる。鮑
 乃貝小似ゆりともぞ。東を
 安藝小北石見西小長門

小地を接ぎ。是を其地貝
 乃輪廓。南を一帶
 周防洋土地を屈曲しや
 多し。貝は破さるる。其
 界を三方山おほく
 東南安藝其境なり。

周防岩國錦帯橋の図



岩國といふ市街ありて。
 宍道川を北西より迂迴屈
 折逼き來り其東より里
 海より入る橋を錦帯橋
 と云ふ。岩國山を北南
 北南西より佐瀬川の一

水みづ分わかきてこのつとなりり。了り
東ひがし一いつ南みなみ又また了り水みづをを西にし小こ川がわ
まま共とも小こ海うみ申まをりり落おちち入いるる。
此こゝ水みづのの間まををるる。東ひがし西にし二ふたつ
のの岬みさきもも東ひがしのの岬みさき乃すなはちち向むかいい側がは。
戸とをを隔へてて一いつ大おほ島しま是こゝをを

大嶋の島をいふ。北は小
 島数多く。西は岬も室津
 港より八咫み室積や南
 牛島長崎の南乃濱を上
 の関上は関より北西乃地
 方も徳山市街より其

生い西より川崎川。北も此
 川より西の方佐波の河川と
 並行し。北より南を南の
 し北は中程より水の川
 も互を連絡を。恰も羅
 馬の頭字のHの形より

似たり。佐波川口は東地を
突出し岬は中の関地を
高きところ天神山。妙山は
北の方山口は北の常國と
長門一國管轄は山口縣
廳ある所さうして一町の人口八

三十五あり。子余。室を
おとす美なるは風俗頗る
健なり。さうまきと義理少
疎しとせ。半紙摺る鳥
子紙紫染より編布。是を
即ち古地の産。

明和國志卷之六
米ハ長門を山陰と山陽
の行止を坤より良に向て長
まの國を東より石見東南
を周防の山と地を接ぎ其
他を三方海を受き北より
西より岬あり海灣あり

間錯り。数へ舉より略し。
西南の端圓形の地形をな
し。南方乃周防に近き
岬と圓地の村の間を海
灣とあり有帆川。浅川吉

因能諸流水流身を海へ
 注ぎ入る。吉田の川能上流ハ
 小より来たる中程まで一丈
 を分ち能新枝を西へ折
 是二の山と甲山の北方へそ
 二丈川とたる別々西へ



長州下ノ關ノ圖

少々能海ふ入る。圓地の頭
せきき みのり まきう
 多下の関南九州とあか
あひ たい
 南北之海能海の水互り
に かい ふう たかひ
 通さる瀬戸をたふす。此瀬
と せ
 戸潮水箭能くともく。水必
と せき せき
 西國能諸船能往來能
さい くに しょ せん せん せき

西國能諸船能往來能

綿由る暇も有る。瀬戸能
北より引島あり。廻りて
西より響洋角嶋越え
大泊船多むおゆ。又
志多山あり。山あり地
野出入あり。海を玉江の

浦とつふ。河上川を東南
より。数流を合へて西より
流を分きて二つとなり。海
へ落ち入る。其間能海濱を
なす。市街。其の東
北より下湊港能東より田方

川石見界の糸姫近し。玉
 六郡のなまはらぐ山口縣の
 管轄なる衆人曰二十四の
 解気候を定む風多し
 山陰道より鬢鬢
 風俗多事遠慮がら其

産物を紙とや丹なり

血生氏日本國畫卷六終

日本圖書集成

瓜生三寅著

第三大區三ノ小區
四番町壹番地

明治五年壬申十月新雕

東京芝大神宮前

名山閣 和泉屋吉兵衛

